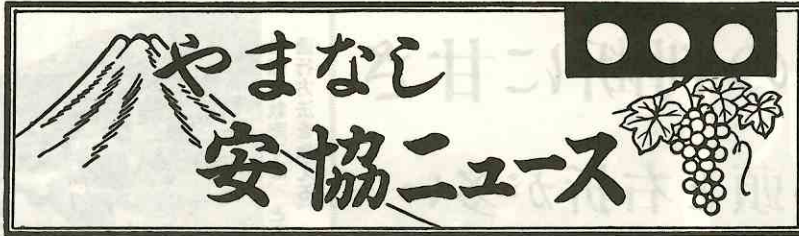


県下の交通事故 (8月22日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
52年	2,625件	55人	3,530人
51年	2,624件	67人	3,574人
比較	+0.04%	-17.9%	-1.2%



第37号

発行所  
甲府市丸の内一丁目6-1  
財団法人山梨県交通安全協会  
TEL 甲府 (0552) 37-7827

秋の全国交通安全運動

9月21日 ~ 9月30日



交差点の事故防止に お年寄りも再教育

交差点の事故を防げ

自転車安全教育も推進

秋の全国交通安全運動は、九月二十一日から三十日までの十日間、全国一斉に実施されます。本県では、国が運動の重点としている①歩行者・自転車利用者、②子どもと老人の交通事故防止、③シートベルト着用の推進、④夜間における交通事故の防止のほかに、県内の実情を踏まえて「ゆっくり運転の推進」として交差点およびその付近における交通事故の防止を、加え四本の柱を立てるとともに、夜間における交通事故防止のなかでは、「飲酒運転の絶滅」を強力にすすめて、県民総ぐるみの運動を展開することになりました。

運動の推進事項は、生活ゾーン対策の推進、交通安全教育の推進、モデル交差点の設定、いわゆる山梨方式といわれる右折優先の排除、ゆっくり運転の徹底、シートベルト着用の徹底、飲酒運転の絶滅、夜間の交通事故防止対策の推進、交通取り締まりの強化、広報活動の推進などです。

自転車利用者の三万人講習を展覧

交通安全教育の推進のため

運動の推進事項は、生活ゾーン対策の推進、交通安全教育の推進、モデル交差点の設定、いわゆる山梨方式といわれる右折優先の排除、ゆっくり運転の徹底、シートベルト着用の徹底、飲酒運転の絶滅、夜間の交通事故防止対策の推進、交通取り締まりの強化、広報活動の推進などです。

山梨方式の悪癖をなくせ

交通安全の過半数(五二%)が交差点およびその付近で発生しており、(死亡事故は四八%)しかもその大部分がいわゆる山梨方式といわれている右折優先、歩行者妨害、優先通行妨害等に起因する実態から、交通量の多い交差点に警察官



運転者諸君! 頭の目も開いてくれ給え

大久保 柔彦

「運転の秘訣を教えます」と言う、ドライバーは耳をかたむけて。だが、その種明かしをやさしく話して聞かせようとする、とたんに「なあんだ」とばかり、馬鹿にして相手にならうとしない。これが、平均的運転者の特性であるらしい。

「そんなことは百も承知だよ、もっとうまい手があるのかと思った。」という意味が、「なあんだ」ということなのだろう。

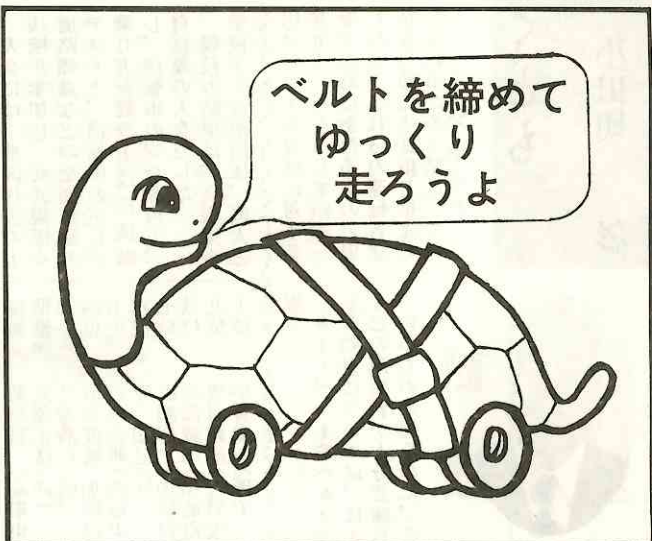
自動車の運転に、とりわけ珍らしい免許皆伝式の技術などあるはずはない。極めて通常の、機械に対する人間の制御行動に過ぎないからである。

「わがやうに言えはどんな条件が現れよう」と、① 運転する車の動的特性を計算に入れながら、② 相手の車(自転車のこともあれば歩行者のこともある)の運動状況に、うまくタイミングを合わせる。

「こんな条件が現れよう」とも、「こんな条件が現れよう」とも、この二つは、道形すなわち、パターン化されたものとして現れてくる。それだからこそ、少し気をつけて眺めて見れば、どれも皆十分予測できるものばかりである。だから、「どんな条件」と言ったところで、先の見とおしのつくものは思わなかった。この説明ばかりである。ひどいことになる、「どうして事故になってしまったのか」を「わからない」と、寝言みたいなことを本気で言うようなとぼけた事故類発者が、まだまだあつたを断たない有様である。

自動車の事故は、向こうからやってくるものではない、みんな自分で、事故の起こりかねない条件の中に、突っこんでいるのである。そうして、どうもならない条件になってから、その条件に気がつくのである。これではおそいのだ。

こんな運転法では、まことに情けないと思う。運転ができるのなら、このことだけはしっかりと頭の中心を開いて、もう一度眺めて直してほしいと思うのである。(全日交研究部長)



視活動を行い、山梨方式の悪癖の排除に努めるとともに、正しい安全な交通に、信号機のある交差点における黄信号での停止と、自転車の右折時の二段進行などに積極的な指導を実施することになっていきます。

中学生弁論大会は十月十九日 県安協、NHK甲府放送局にて開催

表彰式は十月二十五日

県警察本部と県交通安全協会共催の、交通安全功労者および優良運転者等の表彰式は、十月二十五日県民会館小ホールにおいて行われます。

二輪車に乗るときはヘルメットをかぶろう

最近、交通事故をめぐって第三の犯罪が発生している。とくに、三年前の秋の全国交通安全運動の最終日に、東京都江戸川区に起きた事件は、たいへんショッキングな事件であった。交通事故のおそろしさ、とりわけ最愛のひとり息子を交通事故によって奪われた父親の深い嘆きと悲しみ、そして加害者に対する憤りがいかに大きかったか、被害者の心情を如実に物語っており、われわれに多くのことを考えさせられた。わが子の遺影の前に焼香する加害者を、いきなり刺し殺すという行為が許されるべきではないが、そこまで思いつめなければならなかった父親の心情は、察し得るものがある。

さらに、その父親の行為によって、わが子を失うに至ったその被害者の両親は、いったいこの事件をどのように受けとめたいのだろうか。

結局、この事故は、加害者の信号無視という瞬間的な不注意が、ひとりの少年を死に至らしめ、加害者もまたその父親に刺し殺され、父親は殺人犯として、十字架を背負わなければならぬことになった。そして、のこされた両家の家族に限りない悲しみと不幸を与えることになった。

この悲惨なる事故と事件の発端となったものは、「信号無視」という道交法上の一つの違反行為にすぎない。われわれは、いまさらのうちに、道交法上の一つの違反がおよぼす結果が、余りにも大きく、かつ、深刻であることを思わざるを得ないのである。

第三の犯罪

その背景にあるもの  
交通事故は、被害者にも、一生を費やしても償い得ないような大きな損失と負担を与えている。

# とっさの判断に甘さ 出会い頭と右折が多い

県内の女性ドライバーが急増していますが、これに比例して女性の事故も増え全事故に占める比率も高くなる一方です。県警がまとめた「本年上半期女性ドライバーの交通事故」によると、女性ドライバーの交通事故は二百三

件あって、全事故の一〇・二%を占めています。これは過去五年間の最高で、前年比率では四一%増となっています。発生時間帯でみると、午前八時から十時までの通勤時間帯と、午後五時前後の帰宅時間帯に多く、マイカー通勤の女性が増加することと示されています。

年代別では、二十歳代が四九%と約半数を占め、運転経験別では三年未満が多くなり、四三・三%を占めています。事故の類型別でみると、普通乗用車の車同士の衝突が一番多く、道路の形状別では交差点内の事故が最も多く、全体の五五%に達しています。とくにその中の特徴として、右折時の事故が高率を示しているのが目立っています。

自己本位の運転になりがち。事故の原因となった違反

別でみると、女性ドライバーには酒酔い運転、追い越し違反、速度違反などのいわゆる無謀運転は少ないが、前方不注意、優先通行妨害、歩行者妨害、横断、転回、後退時の不注意、操作不適という女性共通のものが多い原因となっている。

これに対し県警では、①とっさの判断に欠ける②女性特有の甘さの心理③自己本位の運転になりがち④他にたよりがちななどの心理をあげ、「とっさの判断が悪い」「前後左右の交通環境に気づいた運転に欠ける」「全般的に操作や判断が甘い」ことなどを指摘し「運転するときは男性以上に注意して」と呼びかけています。

なお、県内の女性ドライバーは七万五千五百人に達し、免許取得者総数の二六%に当たり、県民人口五・四人に一人の割合となっています。

自転車教室では、とくに交差点の正しい通行方法を教える。



## 強力に自転車安全教育

### 三万人講習を実施

#### 委員会設置して活動

自転車利用者に対する安全教育については、すでに十数年前から警察、交通安全協会、学校など関係機関や団体が協力してこれを推進し、相当の成果を収めてまいりましたが、数年来、バイコロジー運動の影響等により、自転車利用者の増加は著しく、これに伴い事故も増加しています。

このような情勢の中で、今回、全日本交通安全協会において、自転車安全教室実施県として本県を指定

し、予算、資料等についても援助することになり、また、県交通安全協会では、七月二十日県自転車安全教育推進委員会を設置し、このように活動要領を決定し、今後は、各地区交通安全協会でも、警察をはじめ関係機関、団体、学校等と協力して、同様の地区委員会を設置し、いよいよ三万人講習をめざして活動を展開することになりました。

委員会の事業  
①自転車安全教育指導員の養成  
②交通安全教育指導員の養成  
③交通安全教育指導員の養成  
④交通安全教育指導員の養成  
⑤交通安全教育指導員の養成

また、五十二年度中に、指導員養成(予定者二百名)の講習会と主として老人、主婦、小・中学生を対象とした安全教室を三百回(受講予定人員三万人)を開催する。

経費  
県交通安全協会の自転車安全教育委託事業特別会計の支出金及びその他の収入をもって充てる。

自転車安全教室等実施要領  
安全教室の実施計画  
委員会は道路交通の状況



応用競技のBコースでは新しい課題も増えた

## 高根東小が三連勝

### 交通安全こども自転車大会

県警本部と県交通安全協会共催の、第八回交通安全こども自転車大会は六月二十六日甲府市立東小で開催された。

これは、自転車の交通安全や、安全で正しい乗り方を身につけることにより、こどもの自転車事故防止を図ることを目的として行われたものである。

大会には、地区代表の十八校が参加し、交通規則や道路標識などの交通知識のテストと、自転車の正しい乗り方を競う実技に挑戦し、自転車の安全教育上、有意義の大会でした。

競技の結果は、高根東小学校チームが団体、個人と個人入賞

優勝 高根東小学校 A  
準優勝 高根東小学校 B  
四位 若神子小学校  
五位 富士見小学校

## 提言

### 罰則はなくなるとも

小田切 彰



交通安全キャンペーンで、シートベルトとヘルメットの着用を何度も呼びかけているが、残念ながらまだ運転者の間に定着していない。とくにシートベルトについては、その着用度が低く、高速道路や街を走っている車を見ても、そのほとんどが着用していない。

これは、その着用度が低く、高速道路や街を走っている車を見ても、そのほとんどが着用していない。

たす個々の運転者の良識に期待しているものと思われ、とくかと思うことだが、交通のルールを守ることは、罰金をとられたり、免許の取消しや停止が困るから

自分たちのルール違反に対する弁解で「みんなして」と等がこれにあたるものと思われ、これらの運転者は、法を守ることに取組みを免れるためと錯覚している。

シートベルトやヘルメットの効果については、ほとんどの運転者が十分認識しているものと思うのに、これはヘルメットやシートベルトはすべての運転者がこれを着用すべきだと思

う。また、それを定着させるために、まず安全協会員が自らすすんでこれを着用し、その実践効果を啓発し、少なくともシートベルトやヘルメットを着用したらこんな事故にならないか、と、後で泣くのではないようにすることができたらと思うのである。

(南甲府交通安全協会会長)

## 新規購入 映画の紹介

山梨県交通安全協会では、新しく次の映画を購入しました。無料でお貸しいたします。ご活用ください。

一、足もとをたしかに  
16ミリ、カラー、二十五分、運転者向。

二、バイクの事故を防ぐに  
は、原付の安全運転

三、飲酒運転  
— その悲劇の記録 —  
16ミリ、カラー、二十八分、一般、運転者向。

四、誘惑の魔の手  
— 酒と車 —  
16ミリ、カラー、二十九分、一般、運転者向。

五、果てしなき交通戦争  
16ミリ、カラー、二十六分、一般、運転者向。

この映画は、長期間にわたって取材班が厚木市消防救急隊と生活を共にし、事故の実体を記録したものです。自分に限らず、日頃ドライバーに、是非観ていただきたいものです。



# 52年版警察白書

## 「物と力」の規制と 「心」に訴える交通安全

警察庁は「交通安全と警察活動」に焦点を絞って「五十二年版警察白書」を警察活動の現況を発表しました。その中に、全国の交通事故死者が十八年ぶりに一万人台を割った「業績」を掲げていますが、この死者連綿六年減少の傾向は主に交通安全施設の整備と、取り締まりの強化に負う「物と力」によるものであったと分析しています。そして今後は、①昭和六十年には運転免許保有者が四千七百万人を突破する。②国民の自動車所有傾向はさらに続く予測し、死者減少傾向を定着させるには、安全運意識の徹底、つまり運転者の「心」に訴える施策を強化することが重要課題になったと指摘しています。主な内容は次のとおりです。

### 交通事故死

昨年の死者は九千七百三十四人で、過去最高だった

女高生もバイクブーム(山梨高校で)



## 真剣に実技講習 高校生の事故なくせ

### 高校生の事故なくせ

県安協と県二輪車安全運転推進委員会は、高校生二輪車事故を防止するため、県警と県教委の協力を得て、県下の各高校で「高校生二輪車安全運転講習会」を開催しています。

講習は、県警交通機動隊員や、二輪車安全運転推進委員会の指導員が「高校生」のためのライディング入門」を教本に、安全運転の知識と二輪車の正しい乗り方の実技を指導するもの

で、なかには視覚教材による全校生講習も行われています。高校生の免許所持者は、大部分が原付免許であるため、いままでは基本的な実技の心得のない人が多いので、各会場とも二時間の実技講習を真剣に受講して

本年四月から八月末まで、すでに二十七回実施し、受講者は一万八千九百七十人に達しています。



61人が二輪車安全運転の腕を競い合った

## 61人が腕を競う

### 二輪車安全運転県大会

県安協と県二輪車安全運転推進委員会主催の第七回二輪車安全運転山梨県大会は、七月十日県運転免許センターで開催され、六十一人が参加して二輪車の安全運転の技を競い合いました。

オートバイの運転は、ライダーの気のおもむくまま、スリルやスピードを求め、スリルやスピードを求め、最近とくに若者に人気が高まっています。なかには視覚教材による全校生講習も行われています。

は、八月二十一日、警視庁府中運転免許試験場で行われた全国大会に、本県代表選手として参加しました。そこで、県警交通部の指導のもとに、二輪車の安全運転技術と交通徳の向上を図り、交通事故の防止を目的として開催したもので

競技は、二輪車の排気量別に四クラスに分けて学科、安全走行、技能走行が行われましたが、入賞者は露出していません。そのうえ自分の技量と知識の未熟なため、各クラスの優勝者

## 八ヶ岳観光地で 事故絶滅作戦

### 長坂署と長坂安協で

長坂署と長坂安協では、関係団体の協力を得て、夏期に多発する八ヶ岳高原の交通事故を抑制するため七月八日に「八ヶ岳観光地夏期交通事故絶滅作戦」を実施しました。

初日には、清里美し森県営駐車場に関係者約百人が参集し「事故絶滅宣言大会」を開催したあと、白バイ、パトカーを先頭に八ヶ岳観光地の広報パレードを行いました。

また、期間中の毎日曜日には安協など関係団体の人が多数が出動して、広報活動と交通要点における監視活動を行い、大型注意標識十本を掲出しました。



町内巡回指導員は、おしゃべりにバイクの前方を、小学生の女の子の乗る自転車が一台走っている。間もなく右手を四十五度

その時、対向して来る女子高生は、おしゃべりに夢中で、道路を半分くらい占領して自転車で走って来る。なんと対照的だろう。注意しても、ものの五メートルトルぐらいしか一列に走

「手をあげて、右を見て左を見て、もう一度右を見て、お耳をすましてごらん、車の音が聞こえるかな。おめめを大きくあけて、車の輪がくるくるまわって、渡る合図をしても、すいすい通り過ぎてしまう車

てくるのを感じながら声をはりあげる。「こどもは動くお信号」まさにそのとおりのだ。いくら手をあげて、道路を渡る合図をしても、すいすい通り過ぎてしまう車

にして叫びたい。「事故の本当の恐ろしさは事故を起こした人でないとわからない。」と人は言う。また「事故を起こそうと思っただけではな

とも言う。しかし、事故の起きやすいことを行えば事故につながることは目に見えている。「あなたにとって安全とは？」と問われ、何と答えるだろうか。

交通安全、私はそれを自分のこととして受けとめて考え、実践してくれる人の多きを願い、今日も街頭に立つ。(一宮町交通指導員)

## 交通指導員の願い

### 松村 栄子

「よくない。自分の仕事の空しさに腹立たしさを覚えながらも、同じ注意を繰り返して行く。保育園児の道路横断の訓練にはとくに神経を使う。

た、と止まらなれば渡りまじくり返りくり返して話して一緒に渡る。ひよこを離したようだ。一瞬の隙も許されない。のどがひりひりし

なんと多いことか。横断歩道こそ歩行者優先の場なのに、そこで事故を起こす運転者のあるのに驚く。運転者よ、歩行者よ、横断歩道をよく見るな。私は声を大

な日本交通安全協会では、昭和五十三年使用の「交通安全年間スローガン」を次の要領で募集します。

募集期間 昭和五十二年八月二十日から九月三十日まで

募集部門 運転者むけ、歩行者むけ、歩行者むけ(自転車を含む) ことむけ 応募要領 運転者、歩行者むけの応募資格は年齢不問。普通はがきの一部門、スローガンで住所、氏名、年齢、職業を明記のこと。枚数に制限はなく、地域、職場などの応募を歓迎すること。むけは小・中学生に限る。普通はがき一スローガンとし、学校名、所在地、学年、氏名を明記のこと。枚数に制限なく、学校単位での応募と、運転者、歩行者むけの応募も歓迎する。作品は自作、未発表のものに限る。

送り先 東京都中央郵便局私書箱三八号一〇〇一九一毎日新聞社事業部「交通安全年間スローガン」係

発表 五十二年十二月一日

表彰式 五十三年一月第十八回交通安全全国運動中央大会の席上で行う。

賞 運転者むけ、歩行者むけの最優秀スローガンに内閣総理大臣賞状と賞金十万円。佳作三十点に全日本交通安全協会賞状と賞金各五千円。ことむけ最優秀スローガンに内閣総理大臣賞状と賞品。受賞者の在学に記念品として交通安全教育教材。佳作十五点に全日本交通安全協会賞状と賞品。